

第5回 大田区基本構想審議会第1部会 議事要旨

日時	平成 19 年 12 月 10 日（火） 午後 3 時～5 時
会場	大田区役所 201 会議室
出席者	中井委員（部会長）、奥田委員、田中（常）委員、千原委員、富田委員、舟久保委員、星野委員（五十音順）

1 開会

2 配付資料の説明

3 審議

都市基盤・産業分野の積み残し論点について

【交通空白地域及び交通不便地域について】

（事務局より平成 16 年「大田区内地域交通現況基礎調査」の概要を説明）

- ・ コミュニティバスは事業の採算は取れないようだ。コミュニティバスは儲けようという性格ではないという理解でご覧頂きたい。
- ・ 歩く距離よりも、坂の多寡や勾配で大変さが変わるのではないか。
- ・ 検討の対象外となっている臨海エリアでも、公園等の公共施設へ向かう人はいる。高頻度でなくても、何らかの足は必要ではないか。区の調査では 15 分に 1 本という頻度を前提に試算しているが、そこまで高いレベルのサービスを公共で担う必要はない。最低限のサービスは公共で賄い、それ以上は地域の方に負担頂いたり、民間ノウハウを活用するなど、切り分けて考えてはどうか。大田区には公共交通空白地域が比較的少ないが、その中で残っているとところへの対策はあった方がいい。
- ・ 今のバス路線の変更や見直しも検討するのか。
- ・ 頻度によって変わるが、コミュニティバスはふと思いたって乗るものなのか、長時間待って乗るものなのか、どちらの感覚で利用するものなのだろうか。
- ・ 高齢化社会ではコミュニティバスの必要性は高まる。しかし、バス事業の経営は厳しく、現行路線も廃止や便数減少がありうる。そのなかでコミュニティバスをどうやって運行するかが課題。バス利用者により恩恵を受ける企業や病院、スーパー等の支援も検討し、交通不便地域の解消をお願いしたい。
- ・ 長期的に考えるべきことと、緊急に対応すべきこととがある。色々な可能性を含めてご検討頂きたい。区の直営と事業委託とが考えられるが、事業委託しているところが多い。福祉の乗合タクシーの支援などもご検討頂きたい。

【中央防波堤】

(事務局より中央防波堤内側埋立地・中央防波堤外側埋立処分場・新海面処分場の概要と、大田区と江東区が帰属を主張している点を説明)

- ・ しばらくはゴミ処分が続き、埋立が終了するまでは時間があるようだ。その間は帰属が決まりそうにないということか。歴史的な経緯もあり難しいが、いずれにしても、大田区としては帰属を主張するというのが基本ではないか。

【産業分野】

- ・ 産業分野の後継者不足については、女性を活用するという視点も必要。出産や育児にどのように対応するか。工場近くの商店街に子どもを預け、代わりに女性が商店街で買い物をするといった工夫ができないだろうか。
- ・ 男女雇用均等法などにより、女性の従業員を増やしたいと思っても、工場側から職安に対して女性の職人が欲しいと要求できない。職安からは求職者の住所と電話番号ぐらいしか提供されない。
- ・ 門を叩く人に対してオープンにしたらどうかということだ。
- ・ 昔と違って女性や若い人だけを募集できない。女性を工場に入れたいと思っても、それが適わないのが現状。女性が自由に応募できる環境にない。
- ・ 女性の採用に積極的な企業を紹介し、接点をつくらうと商工会でも考えようとしている。企業も人は欲しい。

【環境、高さ制限】

- ・ ヒート・アイランドは区内に余りない。他の地区がヒート・アイランドにならないために大田区として何かできないかという視点だろう。つまり、海上と多摩川を持つ大田区として、「風の道」の具体化、水際を開発をどう考えるかということだ。例えば大田区では水際の高層あるいは板状の開発は避けて頂くという方針を持つことが、ヒート・アイランド対策には有効。
- ・ 傍聴者アンケートで高さ制限の指摘があった。建物の規制について意見を聞きたい。
- ・ 環七、環六沿線は高い建物があつていい。京都などでも高さの議論があつたが、大所高所の見地から行政で基準を設けてもいいのではないか。
- ・ 大田区は航空法による高さ制限がある。むしろ今まで建てたくても高いものは建てられなかった。航空法の高さ制限は目一杯使い、むしろ空地、道路・公園を増やすなど、別の次元で圧迫感や狭苦しさを解消した方がいい。
- ・ ヒート・アイランド対策として屋上・壁面緑化を取り入れると負担を伴うので、逆に容積率を緩和しないと、それらが進まない。また、地震対策の問題を踏まえて、新耐震基準以前に建てられた老朽化マンションの建て替えが今

後20年の間に問題となる。その際にもヒート・アイランド対策の屋上・壁面緑化等の義務化を加え、容積率を緩和するなどの策が必要となる。

- ・容積率の緩和とトレードオフに緑地を設けるといったことが必要。第一種住宅専用地域における高さ制限10mでは今の技術ではもったいない。
- ・全体の高さについては航空法で制限されている。後は個別に地域でどうするかを考えるべき。緑については国分寺崖線の最先端であるので、その保全や、それを本門寺につなげるという視点が重要。雨水浸透の問題はかなり深刻で、都市計画としてどう考えるか。大雨の際には、下水処理がオーバーフローしてかなり汚水が出る。それをどうするかを考えなければならない。
- ・屋上緑化や雨水利用を行っている企業もあるが、区として勧めているのか。
- ・床面積1万㎡以上の建物は屋上面積の2割以上を緑化する義務や、屋上緑化すると容積を割り増すボーナス制度などが、都レベルである。
- ・そうした取り組みを進めるのがいいと思う。高層マンションが増えているが、高いところに住むと精神的に良くないと聞く。一方で工場と一体になった平屋の住居がある。その中間ぐらいの建物が増えるといいのではないか。
- ・水と緑を守るのは当たり前で、その実現が課題。今ある緑を守ると同時に、欠けているところにいかにつくり、増やすための手法が論点としてありそう。水や緑はネットワーク化する方が効果が高いので、「ミッシング・リンク」の緑を増やすことが大切。高さについては、個別地域の事情を見ると問題がありそう。建築紛争が生じると、社会的なコストが発生する。それを抑えるためには紛争が起きそうな場所に限って、予め高度規制をかけておくという考え方があり、他区ではそういう考え方で規制をかけている。これは地域でかなり議論して頂くべき問題であり、区も積極的に合意形成を支援するという方向もあるのではないかと。究極はまちづくりそのものを地域の発意でどうするかということであり、町内会等をベースに将来のまちのあり方を提案してもらい、必要なら規制の緩和・強化をするという動きがあればいい。
- ・田園調布では崖の開発が問題になり、地区条例をつくり制限をしている。その他にそうした動きはないのではないかと。高さについては例えば蒲田地区では駅前には容積を目一杯使っている。大規模開発がない限りは、今の状態から先に進めなくなっている。将来的にこれをどう解決するかは考えるべき。
- ・区の中央を通る呑川をどうするか。風の道や水辺という意味では貴重で、田園調布や本門寺の緑ともつながっている。呑川緑道地区構想という、呑川周辺に緑を増やす計画があるが、軸としてつながっていないところがある。
- ・呑川は源流が絶たれているので、実際には川ではないとの話しも聞いたことがある。
- ・呑川の問題を大田区はずっと抱えている。問題は水と周りのアクセスの2点。

水については水源がないので、三次処理の水を持って来るなど、いろいろ方法があると思う。今の状態では下水が入ってくるので、その処理を考えなければならない。アクセスについては、京急のあたりから先は網で囲われ、一般人は入れない。大事な資産であり、どうするかを検討すべき。

- ・ 水の質や量の問題はあるが、大切な環境上の資源であるという認識の下に呑川を位置付けるのが大事。アクセスに関しては川の兩岸の土地利用に関するガイドラインがあるのではないか。兩岸の道路は河川管理用通路という扱いであり、車が入れなければならないなど、いろいろ条件を付けられる。そのあたりを柔軟に対応することで、歩ける場所を増やすとよいのではないか。
- ・ 「鳥道」、すなわち、鳥が生息するためには移動するポイントで緑が必要という考え方がある。そういう配慮があれば素晴らしいまちになる。
- ・ 今後 20 年のスパンで考えると、築 50 年を過ぎるマンションが出てくる。立て替えの際に屋上緑化を考えるべきだが、高さ制限を緩和しないと進めるのが難しく、防災上・環境上、悪いものが存在し続けることになる。
- ・ 既存不適格マンションの建て替え問題は、地域とマンションの関係が大きく関係する。周りの人に「せっかく長く住んでいるのだから」と思われればいいが、業者が入って単に立て替えるという場合は別の話になるのではないか。

【防災・防犯】

- ・ 今後、外国人が増えると考えられるが、国際都市は動きやすい都市である。西洋では住所を通りで管理しており、日本の地番管理は分かりづらい。阪神大震災の時、救助に駆けつけたのは近所の人だった。一般人が分かりやすいまちの仕組みが必要ではないか。長期的な視点に立った問題提起として、通りに名前を付けるというのはどうだろうか。地域で何か貢献するとポイントが付いて、ポイントが貯まると好きな名前をつけられるなどしたら面白い。
- ・ 日本では京都が通りで住所が決まる。京都は非常に計画的につくられており、通りがはっきりしている。日本は通りに面していない家が多く、通りだけだと表示しきれない。今の住居表示は郵便局が配りやすいように番号が振られている。しかし、郵便局も民営化され、GPS 機能がつく携帯端末が増えると、考え方は変わるのではないか。旧町名表示に戻す運動は各地で起きている。
- ・ 道に名前を付けるのは、まちに賑わいや愛着を持たせるという意味でいい。防災上も、通りで示す方が外国人には分かりやすい。全部の道でなくても、愛称を付ければ地域の方が愛着を持てるし、住所表示は定着しているので、現況のままでよいのではないか。
- ・ 通りに名前を付けるというのは、通りをみんなで共有しようということ。通りはまちの境になることが多く、反対側は違う町内会だったりする。通り単

位で考える典型は商店街。日本の道は車用に名前が付いているが、人用の名前にはなっていない。居住者用に名前、愛称や通称があってもいい。

- ・ 防災面では古い建物、木造密集をどうするかという問題もある。高齢化が進むので、その解消は防災上も課題。市民組織としては自治会・町会があるが、平均年齢 70 歳などで、緊急時に使えるかどうか疑問。また、職住接近のまちなので、職場の人たちをどう考えるかに、一步踏み込んでいない。
- ・ 一人暮らし高齢者や障害者など、非常時に援助が必要な人のリストは、個人情報との関係があって試行錯誤中のようだ。中野区は基本的には名簿を持っており、区では全部やれないので、自治会や NPO がチェックするという体制を築きつつある。一番先にすべきことは、近くに住んでいる人が無事を確認すること。自治会、NPO、区の出張所等がそれを担うのが、防災の基本。
- ・ 町会・自治会は非常に高齢化しており、災害時の実働として若い人に参加してもらおうことを考えなければならない。若い方にとって魅力的な自治会・町会となり、若い人材登用を促すようなことが必要と思う。
- ・ 防災・防犯では電子化を前向きに活用すべき。例えば夜中に移動したいとき、事前に登録した目的地に着かなければアラームを発信するなど。町会も限られた人しかいないので、顔の見えるネットサービスをつくるなど工夫が必要。
- ・ 増え続ける高齢者・障害者の方々をどう地域で捉えるか。行政が関与しなければ難しい問題だ。今まで大田区は手挙げ方式（私を助けて欲しいという人だけを対象とする）だった。それでは漏れが出るので、積極的なアプローチをした方がいい。市民防災組織の高齢化問題は深刻。消防団がサポートしている地域もあるが、新しいボランティア精神に富む人を確保しないと厳しい。

第 1 専門部会の基本目標について

- ・ 議論してきたことに比べると表現できる文字数が短い。全部は込められない。それは説明文で表現したい。表現の仕方だが、主語を入れるのは難しいが、一方で主語を入れないと誰がやるか不明確になるという意見もある。
- ・ 基本目標としては、人、わたしが大田区の中でどうしたいのかを示したい。「くらしと産業が調和するまち 大田」という案がいい。人の活動には、日々のくらしと、産業の 2 つであり、その 2 つを基本目標としたい。その要素は 3 つ有る。1 つは大田区の自然で、山、海、川がある。水辺を活かすことが入っていた方がいいと思うので、1 点目の個別目標は「ウォーター・フロントを活用し、大田の豊かさが織り成すまちを実現します」とした。2 点目の地域特性としては羽田空港があるので、個別目標を「首都空港『羽田』が国際化のトビラを開け、日本・大田を発信します」とした。その上で、大田区の中でどう働くか、社会に携わるのかということで、「『世界のものづくり都

- 市、大田』を地域で支え、大田ブランドを広めます」という個別目標とした。
- 基本目標はまちと羽田と産業という要素を活かし、「世界に向けて未来を育む産業のまち」とした。「世界に向けて」は羽田空港を代弁。産業に関しては、黙っていたら衰退するという危機感があり、未来に向けて能動的活動が欠かせない。それを可能にするのは人の意思と行動。「産業のまち」は、ダイナミックで明るいイメージであり、繁栄する産業と豊かな経済力があって瀟洒(しょうしゃ)な町が生まれる。個別目標はこれを分解し、多少ニュアンスを変えた。1つ目の「未来を育むまち」は主語を補うと、「大田区(住民と行政)は、繁栄する未来を築くため、その担い手となる人を積極的に育成し、それによりまちを豊かにする」。「人と情報を受けとめる空港都市」「イノベーションを産む産業」は「未来を育むまち」のための手段であり、一体のものである。
 - 基本目標には未来という字が必要。個別目標については、アートなまち(まちづくり)、羽田空港、大田ブランド(産業)という言葉は是非入れたい。
 - 「ものづくり」を「創造都市」など、未来に広がる言葉に代えられないか。羽田について、品川区は空の玄関としている。大田区はどういう言葉を使うか。
 - まちづくりについて、皆さんが望んでいるのは安全・安心。安全・安心は当然のこととして、未来に向けてアートのまちづくりという言葉を入れたい。
 - キャッチフレーズはもっと具体性があった方がいい。資料の「まちの魅力と産業技術を誇る」は「輝く」とした方がいい。個別目標のまちづくり分野ではウォーター・フロント、安全・安心、アートがキーワード。これらを融合した文案がつかれないか。羽田・臨海は大田区のこれからの活力の源であり、個別目標で「最後の羽田空港と臨海部を活かした」と、具体的な表現がいい。
 - アートラインプロジェクトには感動し、大変いい活動だと思っている。しかし、一般の人は衣食住を満たすのでいっばいで、アートは衣食住を満たした人が関わることなのではないか。まず衣食住を満たすことありきではないか。
 - 個別目標は今の区切りにとらわれず、うまい組み合わせがあればいいと思う。次回は候補を減らして示したい。少し時間を頂いて、事務局・座長で検討する。各委員に意見を伺いに行くかもしれないが、その節はよろしく願いたい。

4 区民との意見交換会について

(事務局より、意見交換会で報告する第1部会の説明資料の確認を依頼)

- 「ウォーター・フロント」という表現は漠然としている。臨海部とした方がいいのではないかと。多摩川や呑川が入ることではないだろう。

- ・ ここは臨海部にしたい。水と緑については、もっと書き込める。多摩川が記述されていないなど、抜けている議論がある。枚数が増えてもいいので、一般的に充実させて頂きたい。前回審議会で配布した意見の要約に戻って、付け加えて頂きたい。見直し内容は座長に一任頂きたい。

以上